階層的なモデルにおける 学習の目的関数の大域的性質

福水健次

情報・システム研究機構 統計数理研究所 総合研究大学院大学 複合科学研究科

アウトライン

- イントロ 階層的なパラメータを持つモデル 多層パーセプトロン、有限混合モデル
- 階層的モデルの目的関数の持つ性質
- 臨界直線の存在
- 極小点 / 鞍点となるための十分条件
- ガウス混合モデルの例: コンポーネント分割法



イントロ: 階層的なパラメータを持つモデル

■ 非線形モデルの難しさ

- 目的関数の局所解
- モデルの特異性 / 識別不能性

統計的解析の困難、学習ダイナミクスの複雑さ

一般に非線形モデルの理論解析は難しい e.g.) 多層パーセプトロンの局所解の存在

■ 階層的モデル

● 3層パーセプトロン、有限混合モデルに共通な特殊な構造を用いて、 目的関数の大局的な構造を探る

階層的モデル

■ 有限混合モデル

 $f_{K}(x \mid \theta^{(K)}) = \alpha_{1} g(x \mid \beta_{1}) + \dots + \alpha_{K} g(x \mid \beta_{K})$ $g(x \mid \beta) : \mathbf{a} \mathbf{a} \mathbf{a} \mathbf{g} \mathbf{g} \mathbf{g} \mathbf{g} \mathbf{g}, \qquad \sum_{j=1}^{K} \alpha_{j} = 1, \quad \alpha_{j} \ge 0.$

■ 3層ニューラルネット

$$f_{K}(x | \theta^{(K)}) = \alpha_{1} \varphi(x | \beta_{1}) + \dots + \alpha_{K} \varphi(x | \beta_{K}) + d$$
$$\varphi(x | \beta) : 非線形関数(シグモイドなど)$$

■ 階層的モデルの一般系

$$f_K(x \mid \theta^{(K)}) = \alpha_1 g(x \mid \beta_1) + \dots + \alpha_K g(x \mid \beta_K) + \phi(\gamma)$$

 $\theta^{(K)} = (\alpha_1, \dots, \alpha_K; \beta_1, \dots, \beta_K; \gamma)$: パラメータ $\sum_{j=1}^{K} \alpha_j = 1$ の制約は Lagrange乗数法で扱う(以下では略)

階層的モデルに共通の性質 同一のコンポーネント サイズのひとつ小さいモデル $f_{K}(x|\alpha_{1},...,\alpha_{K};\beta_{1},...,\beta_{K-2},\underline{\beta_{K-1}},\beta_{K-1})$ $= \alpha_{1}g(x|\beta_{1})+\cdots+\alpha_{K-2}g(x|\beta_{K-2})+(\alpha_{K-1}+\alpha_{K})g(x|\beta_{K-1})+\phi(\gamma)$ $= f_{K-1}(x|\alpha_{1},...,\alpha_{K-2},\underline{\alpha_{K-1}}+\alpha_{K-2};\beta_{1},...,\beta_{K-2},\beta_{K-1})$



階層的モデルに共通の性質2

■ 微分に関する性質



係数だけが異なる。

階層的モデルの目的関数

■ 目的関数の定め方 与えられたデータ $x_1,...,x_n$ と損失関数 $\ell_1(t),...,\ell_n(t)$ に対し

最小化の目的関数: $L_{K}(\theta^{(K)}) = \sum_{i=1}^{n} \ell_{i} \left(f_{K}(x_{i} \mid \theta^{(K)}) \right)$

例1) ニューラルネット: 教師データ
$$y_i$$
があるときは $\ell_i(t) = \left(y_i - t\right)^2$

例2) 有限混合モデル:最尤法 $\ell_i(t) = \ell(t) = -\log(t)$

階層的モデルの目的関数の性質

■ 目的関数の2つの性質

(P-1)
$$L_{K}(\alpha_{1},...,\alpha_{K};\beta_{1},...,\beta_{K-2},\beta_{K-1},\beta_{K-1})$$

= $L_{K-1}(\alpha_{1},...,\alpha_{K-2},\alpha_{K-1}+\alpha_{K-2};\beta_{1},...,\beta_{K-2},\beta_{K-1})$

ひとつ小さいモデルとの関係式

$$(\mathsf{P-2}) \quad \alpha_{K} \frac{\partial L_{K}}{\partial \beta_{K-1}} (x \mid \alpha_{1} \dots, \alpha_{K}; \beta_{1}, \dots, \beta_{K-2}, \underline{\widetilde{\beta}}, \underline{\widetilde{\beta}}) \\ - \alpha_{K-1} \frac{\partial L_{K}}{\partial \beta_{K}} (x \mid \alpha_{1} \dots, \alpha_{K}; \beta_{1}, \dots, \beta_{K-2}, \underline{\widetilde{\beta}}, \underline{\widetilde{\beta}}) = 0$$

微分の線形従属性

Note:
$$\frac{\partial L_K}{\partial \beta_j}(\theta^{(K)}) = \sum_{i=1}^n \ell'_i(f_K(x_i \mid \theta^{(K)})) \frac{\partial f_K(x_i \mid \theta^{(K)})}{\partial \beta_j}$$



■ 臨界点の埋め込み

- $\theta_{*}^{(K-1)} = (\alpha_{*,1}^{(K-1)}, \dots, \alpha_{*,K-1}^{(K-1)}; \beta_{*,1}^{(K-1)}, \dots, \beta_{*,K-1}^{(K-1)})$: $L_{K-1}(\theta^{K-1})$ の臨界点(微分が0の点)
- $\rho \quad \mathbf{R} \, \mathbf{k} \, \mathbf{k} \, \mathbf{j} \, \mathbf{k} \, \mathbf$

このとき、 $f_{K}(x | \theta_{\rho}) = f_{K-1}(x | \theta_{*}^{(K-1)})$ かつ $L_{K}(\theta_{\rho}) = L_{K-1}(\theta_{*}^{(K-1)})$ (任意の ρ) $f_{K}(x | \theta_{\rho}) = f_{K-1}(x | \theta_{*}^{(K-1)})$ $f_{K}(x | \theta_{\rho}) = f_{K-1}(\theta_{*}^{(K-1)})$ $f_{K}(x | \theta_{\rho}) = f_{K-1}(\theta_{*}^{(K-1)})$ $f_{K}(x | \theta_{\rho}) = f_{K-1}(\theta_{*}^{(K-1)})$





定理1

 $\alpha_{*,K-1}^{(K-1)} \neq 0$ のとき、任意の ρ に対し θ_{ρ} は $L_{K}(\theta^{K-1})$ の臨界点。

集合 $M_{K}(\theta^{K-1}) = \{\theta_{\rho} | \rho \in \mathbb{R}\}$ はパラメータ空間の中で直線(線分) をなすので、臨界直線(線分)と呼ぶ。

直接微分すると、すぐ証明できるのだが、、、 どういう点が特殊か?

臨界直線の存在3

■ 定理1の意味

部分多様体上の臨界点は、 大きなパラメータ集合での臨界点とは 限らない。 一般に、補空間方向の微分に 関する情報はない。

ところが、階層モデルでは、 構造的に臨界点として埋め込まれている。







は1階微分のすべてを張る。

 $\nabla L_{K}(\theta_{\rho}) = 0$

定理1からわかること

■ 臨界直線は「常に」存在する

臨界直線の存在は、階層型モデルの構造のみ由来。 損失関数、コンポーネントの非線形関数、学習データには依らない性質。

■ 臨界直線は多数存在する

K-1 サイズのモデルに対し、分割するコンポーネントは任意。 Kサイズのモデルのどの2コンポーネントに分割してもよい。 L_{K-1} の1個の臨界点に対し、(K-1)_KC₂本の臨界直線。

■ 高次元の臨界アフィン部分集合も存在 臨界直線をさらにサイズ K+1 に埋め込む 臨界2次元平面 …

極小点/鞍点の十分条件

直線 $M_{K}(\theta^{K-1})_{*}$) 上では、 L_{K} は一定値 (= $L_{K-1}(\theta^{K-1})_{*}$))

> $M_{K}(\theta^{K-1})_{*}$) 上の各点で、この直線に 直交する平面に制限した L_{K} の Hessian を考える。

- Hessian が正定値 極小点
- Hessian が負の固有値を持つ 鞍点



極小点/鞍点の十分条件2



3層ニューラルネットの場合

鞍点と極小点の共存 行列 R が正定値、 $\alpha_{*,K-1}^{(K-1)} > 0$ と仮定する。 $\alpha_{K-1}^{(K)} = \rho \alpha_{*,K-1}^{(K-1)}, \quad \alpha_{K}^{(K)} = (1-\rho) \alpha_{*,K-1}^{(K-1)}$ **で定まる臨界直線上の点** θ_{ρ} $M_{K}(\theta^{K-1})$) を考える $\alpha_{K-1}^{(K)} \alpha_{K}^{(K)} (\alpha_{K-1}^{(K)} + \alpha_{K}^{(K)}) = (\alpha_{*,K-1}^{(K-1)})^{3} \rho(1-\rho)$ であるから、

(i) 0 < ρ < 1 の線分上の点 ・・・ 極小点
(ii) ρ 0, ρ 1 の2線分上の点 ・・・ 鞍点

同一の関数値をとるパラメータ点だが、近傍での様子が異なる。

有限混合モデルの場合



他のモデルの例



ガウス混合モデル

■ ガウス分布、PCA、FAの混合モデル

$$f_{K}(x;\theta^{(K)}) = \sum_{j=1}^{K} \alpha_{j} g(x \mid \beta_{j}),$$

$$g(x \mid \beta) = \frac{1}{\sqrt{(2\pi)^{M} \det V}} \exp\left\{-\frac{1}{2}(x-\mu)^{T} V^{-1}(x-\mu)\right\} \qquad \beta = (\mu, V)$$

(MPCA や MFA の場合は, V に構造が入る)

定理4 ガウス分布、PCA、FAの混合モデルにおいては,<u>K-1</u>モデルに対する 尤度関数の孤立極大点は、<u>K</u>モデルにおける鞍点を与える。

*分散共分散行列をパラメータに持つ必要がある。

行列 R_iの正の固有値に対応する固有方向に対して,尤度は常に上昇



コンポーネント分割法に応用

コンポーネント分割法

■ 有限混合モデルに対するコンポーネント分割法

● EMアルゴリズムの初期値依存性

● 尤度無限大(分散 0)の問題 ローカルサーチの必要性
 コンポーネント分割・統合が有力な方法

■ 尤度を増大する分割法

 $\theta^{K-1}_{*}: L_{K-1}(\theta^{K-1}) \mathbf{O}(孤立) 極大点$ $\zeta_{j*}g(x; \mu_{j*}, V_{j*}): f^{(K-1)}(x; \theta^{K-1}_{*}) \mathbf{O}_{j}$ 番目のコンポーネント **分割法**: $\alpha_{*,j}^{(K-1)} \rightarrow \frac{1}{2}\alpha_{*,j}^{(K-1)}, \frac{1}{2}\alpha_{*,j}^{(K-1)}$ $\mu_{*,j} \rightarrow \mu_{*,j} - \varepsilon \Delta \mu_{j}, \mu_{*,j} + \varepsilon \Delta \mu_{j}, \quad V_{*,j} \rightarrow V_{*,j} - \varepsilon \Delta V_{j}, \quad V_{*,j} + \varepsilon \Delta V_{j}$ $(\Delta \mu_{j}, \Delta V_{j}): R_{j}$ の最大固有値に対応する固有ベクトル $\varepsilon: 小さい正の数$

EM + 分割法の実験1

■ ガウス混合モデル



EM with random initialization log like.: av = -1059.0 (30 trials) Best(once) = -1030.9

Online-EM with random initialization 4 times failure (Singular V) log like. : av. = - 1037.9(26 trials) best (7 times) = -1021.2

Online-EM + component splitting 30times - 1021.2

EM+分割法の実験2

■ PCAの混合モデル



150 data, 3 dim.Mixture of PCA up to 8 components of rank 1

Online-EM with random initialization log like. : av. = -583.9 (30 trials) best (6times) = -534.9worst = -648.1

Online-EM + component splitting log like. : av. = -541.3 (30 trials) best(26times) = -534.9worst = -587.9





"Lenna"

160 x 160 pixels 8 x 8 block = 64 dimensional vector 400 data in total

Mixture of PCA with 10 components of rank 4.

Image compression Choose argmin_j || $X - \mu_j$ || Reconstruction according to $\hat{X} = \mu_j + F_j (F_j^T F_j)^{-1} F_j^T (X - \mu_j)$ Residual square error: $\sum_{n=1}^{400} || \hat{X}_n - X_n ||^2$

Results (10 trials, RSE:x10³) EM with random initialization Best 5.94 Worst 6.40 Av. 6.15

EM with component split Best 5.38 Worst 6.12 Av. 5.78

まとめ

■ 階層型モデルの目的関数が持つ大域的性質

- 有限混合モデル、多層パーセプトロンなどのモデルの目的関数は、 構造から来る特別な性質を持っている。
- ●小さいモデルの臨界点が,大きいモデルの臨界直線、臨界アフィン 集合として埋め込まれる。
- 臨界直線,臨界アフィン集合は、常に多数存在している。

■ 鞍点/極小点の十分条件

- 臨界直線上の点が, 極小点/鞍点になる十分条件が容易に得られる。
- ガウス混合モデル/MPCA/MFAでは、最尤点からコンポーネントを分割すると、尤度を上昇させる方向が常に存在する。

■ EM + コンポーネント分割法



- K. Fukumizu and S. Amari. Local Minima and Plateaus in Hierarchical Structures of Multilayer Perceptrons. *Neural Networks*, 13(3) 317—327, 2000.
- K. Fukumizu, S. Akaho, and S. Amari. Critical Lines in Symmetry of Mixture Models and its Application to Component Splitting. *Advances in NIPS 15* (2003).
- 福水,栗木,竹内,赤平. 特異モデルの統計学(統計科学のフロンティア7)岩波書店(2004).